



世にも
メガネな物語

秋葉原の父

卒業メガネライブ

先日、トップ・メガネアイドルグループ『メガネー娘。』のライブに行ってきました。

ライブはいつも通り盛り上がっていたのですが、アンコール曲『L O V Eメガネー』を歌う前に、メンバーから衝撃発表がありました。

『L O V Eメガネー』のヒット以来、縁起をかついで、ずっと同じメガネを続けていたメンバーたちが、人気低迷もあってか、2006年からは最新メガネにモデルチェンジして心機一転すると言うんです。

度重なるメンバーチェンジはあっても、メガネチェンジはなかっただけに正直ショックでした。

興奮したメガネファンが、ステージに向かってメガネを投げつけるという一幕もありましたが、メンバーたちは、涙とメガネをふいて最後まで歌いきり、『卒業メガネライブ』は幕を閉じました。

メガネファンには一生忘れることのできないライブです。

今日のメガネ川柳

「メガネー娘。 卒業したら コンタクト」

過去にメガネー娘を卒業した元メンバーが、卒業後、メガネからコンタクトに変えたために、多くのファンから反感をかったというエピソードを元に句を作ってみました。

ちなみに僕は、レンズちゃん（メガネー娘の初代メンバー）の大ファンでした。

先日、担任の『つば原先生』に怒られました。

でも、原因は、つば原先生にあるんです。

先生はしゃべる時に大量のツバを飛ばすんですが、そのツバが、一番前の席に座っている僕のメガネにライナーで飛んでくるので、そのライナー性のツバをよけようと首を左右に振っていたら、その姿を見たつば原先生が「お前は落ち着きのない生徒だ」とみんなの前で怒鳴りちらしました。

僕はただ、先生のツバをよけてただけなのに....。

我々メガネ学生には、もっとも天敵にあたる先生です。

今日のメガネ川柳

「つば原の ツバはライナー 服、トレーナー」

つば原先生は、いつも上下トレーナーのくせに、父兄参観の時だけはスーツを着てきます。そのくせ、「みんな～、いつも通りの姿をお母さんたちに見てもらおうな～」などとぬかします。僕は「お前のファッションが一番いつも通りじゃないんじゃ、ボケー」といつも思います。そんな、言葉に出せない怒りを句にしてみました。

伊達くん

僕のクラスには『伊達』という名前の男子生徒が2人いるんですが、1人はメガネをかけているので、担任の先生からは『メガネをかけている伊達くん』 & 『メガネをかけていない伊達くん』と区別されて呼ばれていました。

その時は「クラスに同じ名前の生徒がいると大変だなあ」と思っていたんですが、先生も面倒臭くなったのか、『メガネをかけている伊達くん』のことを、『メガネをかけている伊達くん』 → 『メガネの伊達くん』 → 『伊達メガネくん』、最後には、『メガネくん』と呼ぶようになりました。

そうなってくると、まるで『メガネをかけている伊達くん』が、ウチのクラスでメガネをかけている生徒の代表みたいに思えてきて、徐々にメガネジェラシーを感じ始めました。

だから僕は、『メガネをかけている伊達くん』のことを『読書もしないくせに、眼が悪くなって、留年しそうな伊達くん』を省略して『読眼留マサムネ』と読んでいます。

今日のメガネ川柳

「伊達くんは 笑うとメガネがズレるんだ」

『メガネをかけている伊達くん』は普段あまり笑わないのですが、僕がやっさん（横山やすし 師匠）の「メガネ、メガネ」のギャグをマネする時だけは必ず笑ってくれます。そして、笑いすぎてメガネがズレたりします。僕は、そんな伊達くんの姿を見て大笑いします。それが、「男と男の友情」ならぬ「メガネとメガネの友情」を感じる瞬間です。

そういう気持ちをこの句にしたためてみました。

メガネ風邪

先日、『メガネ風邪』をひいてしまいました。これは特殊な風邪で、目のまわりが黒く腫れて、まるでメガネをかけているように見える病気です。この風邪のやっかいなところは、メガネをかけていないのに、メガネをかけているような気分になってしまうことです。

この前も、メガネ風邪をこじらせ、メガネをかけているつもりで学校に行ってしまう、友達の「あれ、お前メガネ変えたんだ？」の一言で、自分がメガネをかけていないことに気付きました。

メガネユーザーにとっては、とても深刻な病気です。

今日のメガネ川柳

「メガネ風邪 かかっている人 見たことない」

この句は、「そういえば、僕以外にメガネ風邪にかかっている人を見たことないなあ」という素朴な疑問を忠実に再現したものです。でも、近所の有名なヤブ医者には「あ〜、その顔はメガネ風邪だね」と言われたことがあるので、病気自体は存在するはずです。

禁メガネ法

先日、おじいちゃんのお見舞いに行ってきました。おじいちゃんは僕に会うたびに、戦後数年間制定された『禁メガネ法』の話をしてくれます。当時、日本に勝ったアメリカは、日本人を連想する物を禁止しようとして、『禁メガネ法』を定めたそうです。でも、僕のおじいちゃんはとても勇敢な子供だったらしく、学校のトイレの中などで、隠れてメガネをかけ続けたそうです。

しかし、その事を留学生の根沢東（こんたくとう）くんにつくられたせいで、『隠れメガネシタン』の汚名を負わされ、最後には『踏みメガネ』までさせられたそうです。

その時、踏んだメガネの跡が、今でも残っていて、足の裏を見るたびに当事を思い出して涙が出るそうです。

戦後60年以上たった今も、おじいちゃんの涙を誘う法律です。

今日のメガネ川柳

「おじいちゃん どうして今は コンタクト」

戦後当時、禁メガネ法をやぶってまでメガネをかけ続けようとしていたおじいちゃんが、最近になってコンタクトに変えた事に対するアンチテーゼを句にしてみました。

おじいちゃんは、「ワシは、まだまだモテたいんやー」と叫んではナースコールをして、担当のナースを口説いているようです。

ちなみに、担当のナースは53歳らしいです。

バッファローマン66

先日、映画『バッファローマン66』でおなじみのヴィンセント・ギャロ監督の最新作『バッファローマン66』の試写会に行ってきました。

この映画は、ヴィンセント・ギャロ扮するバッファローマンが、2時間で66コの最新メガネをかけては外し、かけては外しするドキュメンタリーです。

※ バッファローマン = マンガ 『キン肉マン』に出てくる元・悪魔超人

ヴィンセント・ギャロ扮するバッファローマンが新たなメガネをかけるたびに、メガネマニアで埋めつくされた映画館からは「オー！」という歓声が上がっていました。

メガネマニアの心に残る映画です。

今日のメガネ川柳

「バッファローマン66 全米ではなく ウミガメが」

通常、映画のキャッチコピーには「全米が泣いた！」というような表現が使われるものですが、この『バッファローマン66』のキャッチコピーは「ウミガメが泣いた！」でした。

ちなみに、同時上映されていた『パッチギ』のキャッチコピーは「紳助が泣いた！」でした。

日本は平和です。

メガネ喫茶

先日、ひさしぶりにメガネ喫茶に行ってきました。

この喫茶店はメガネカップルで行くと、もれなく恋が結ばれることで有名なメガネスポットです。僕は、この喫茶店でホットコーヒーを飲むたびに、生まれて初めてのデートで、この店に来た時のことを思い出します。

当時、女の子と話すことが苦手だった僕は、友人で留学生の根沢東（こんたくとう）くんを通じて、なんとか女の子（もちろんメガネの）をデートに誘うことに成功しました。

しかし、デート中に何をしゃべっていいのか分からず、あせりと緊張のあまり、何度も何度もメガネを拭いていました。

それを見かねたのか、メガネ喫茶のマスターが、注文してもいないホットコーヒーを2人に出してくれたんです。

そして、コーヒーを飲もうとした瞬間、奇跡（メガネ・マジック）は起こりました。

なんと、コーヒーの湯気で2人のメガネが同時にくもったのです。

お互いのくもりメガネを見て、自然と2人の間に笑い声が生まれ、それがキッカケで2人の会話もはずんでいきました。

チラリとマスターを見ると、ニヤリと笑うマスターのメガネが、キラリと光りました。

メガネ少年の、ほろ苦い初恋の思い出です。

今日のメガネ川柳

「マスターは ちゃっかり取るのさ コーヒー代」

注文してもいないホットコーヒーを出して、デートのアシストをしてくれたマスターですが、お勘定には、きっちり2人分のコーヒー代が含まれていました。

マスターは、いろんな意味で大人でした。

そんなマスターの大人具合をこの句にたっぷり注ぎこんでみました。

メガネマッスルの乱

先日、学校で体力測定がありました。

体力測定にはケンスイが含まれているんですが、僕のクラスにはケンスイが一回もできない豚原くんという、デブでメガネの生徒がいて、体育の筋田一先生が豚原くんのことを考慮して、「メガネをかけている生徒に限り、『アゴ』ではなく『メガネ』が鉄棒の上を越えれば一回とみなす」という新ルールが導入されました。

そして、その新ルール導入により、学校のケンスイ界の勢力図が大きく変わったのです。

新ルールによって、全てのメガネ生徒に約10cmほどのアドバンテージができ、今年のケンスイTOP10のうち8人がメガネマッスルという、俗に言う『メガネマッスルの乱』が起きました。

※ メガネマッスル = 筋肉質なメガネユーザーの別名

同じメガネユーザーとして、とても誇らしい一日になりました。

今日のメガネ川柳

「豚原くん 新ルールでも 0回だ」

新ルール導入によって、多くのメガネ生徒が活躍したわけですが、新ルール導入の原点とも言うべき豚原くんは、結局1回もケンスイができませんでした。

というより、デブの豚原くんは、できるだけ体重を軽くしようとしてか、身に着けている体操服や運動シューズ、そして、肝心のメガネもはずしてケンスイに挑んだのです。

結局、メガネをはずしたために新ルールは適用されず、今回も0回に終わりました。

しかし、素っ裸でケンスイに挑む豚原くんの姿は、多くのメガネ生徒、および、普通の生徒の感動を呼び、運動場は拍手の渦でした。

まさに「『記録』ではなく、『記憶』に残るケンスイ」でした。その『記憶』を、この句にパッケージしてみました。

理科の実験

先日、理科の授業で「炭酸水に一週間、物をつけるとどうなるか？」という実験をしました。他の生徒は鳥の骨などをつけていましたが、僕はメガネをつけてみました。

そして一週間後、炭酸水からメガネを取り出すと、なんと、分厚かったメガネのレンズが薄型レンズになっているではないですか！

薄型レンズは普通のレンズよりも高額なので手が出せなかったんですが、この実験のおかげで、オシャレな薄型レンズユーザーにステップアップすることができました。

理科の先生も「コーラー、薄ソーダ」と得意のオヤジギャグを連発していました。

メガネ貧乏にはたまらない、メガネからウロコの実験でした。

今日のメガネ川柳

「一週間 メガネがなくて 困ったよ」

実験のおかげで、分厚いレンズが薄型レンズになったのは良かったんですが、その代償に一週間もメガネなしの生活を強いられることになりました。

(実験で、炭酸水に一週間メガネをつけていたため)

一番困ったのは、とある女子に愛の告白をされた時でした。

僕は、メガネをはずすと、近くの物もぼやけて見えるほどの超ド近眼なので、告白された時も相手の顔はほとんど見えていませんでした。

でも、僕みたいなブサイクな男子にカワイイ女子が告白するわけがないし、他に好きな女子もいたので断ることにしたんです。

ところが、数日して、僕に告白してくれた女子が、僕が小学校の頃から思いを寄せていた花子さんだという事を、友人で留学生の根沢東（こんたくとう）くんから知らされました。

僕はいてもたってもいられず、花子さんのいる教室（3-2）へ走りました。

そして、全ての事情を話し、「僕と付き合ってほしい」と言いました。

ところが、花子さんは...

「わ、わたし...、あなたの分厚いレンズが大好きだったのに...。」

そう言い残し、小走りに去って行きました。僕は薄型レンズを手に入れた代わりに、とても大切なモノを失ってしまいました。

そして、今日のメガネ俳句は、ショックのあまり最悪のできとなりました。
次は頑張ります。

ミドメガネンジャーの嘆き

先日、メガネキッズに大人気のヒーロー『メガネンジャー』の一人、ミドメガネンジャーと飲んできました。

どうやら、自分の色のメガネグッズの売れ行きが一番悪いということで悩んでいました。

しかも、リーダーの赤メガネンジャーから「お前のメガネグッズは赤くもないくせに大赤字や！」みたいなことを言われたようで、「あいつをナイフでメッタ刺しにして、全身赤メガネンジャーにしてやる」と、売れ残りのグッズ『ミドメガネサーベル』を握りしめていました。

メガネキッズの夢を壊す裏メガネ話です。

今日のメガネ川柳

「メガネンジャー 変身アイテム もちろんメガネ」

藤岡弘（仮面ライダー1号）は変身ベルトによって仮面ライダーに変身するわけですが、メガネヒーローである『メガネンジャー』はメガネを装着することによって、メガネンジャーへと変身します。

もちろん赤メガネンジャーは赤色のメガネ、ミドメガネンジャーは緑色のメガネ、という具合です。

しかし、本当に強い敵が現れた時は、赤メガネンジャーが5人分のメガネ（赤、青、黄、緑、桃）を装着し、『スーパー・メガネンジャー』へと変身するのです。

かつて、一度だけ赤メガネンジャーがスーパー・メガネンジャーへと変身するシーンがありました。しかし、変身したスーパー・メガネンジャーのコスチュームは、メガネンジャー全員分の色（赤、青、黄、緑、桃）を混ぜ合わせたもので、どう見てもメガネキッズ好みのビジュアルではありませんでした。

そのせいか、その回の視聴率は過去最低を記録し、スーパー・メガネンジャーは一度限りのレア・メガネヒーローとなったのです。

（このエピソードを聞いて、『幽遊白書』の「飛影」を思い出すのは僕だけでしょうか？ 飛影は当初、変身型妖怪という設定でしたが、実際に変身したのは、主人公の幽助と闘った一度だけでした。）

これは余談ですが、ミドメガネンジャーがプライベートでかけていたメガネは赤色でした。

僕はその姿に「本当は赤メガネンジャーになりたかった！」という彼の切実な思いを感じ取りました。

頑張れ、ミドメガネンジャー！

部屋とYシャツとメガネ

みなさんは、平松愛理さんをご存知ですか？

そう、1992年、『部屋とYシャツと私』を大ヒットさせた女性シンガーです。

先日、中古レコード屋さん立ち寄った時、『部屋とYシャツと私』のシングルCDを発見し、懐かしさのあまり購入しました。

そして、自分の部屋でCDを聴いていた時、事件は起こりました。

なんと、最後のサビの「部屋とYシャツと私～♪」の部分が「部屋とYシャツとメガネ～♪」に聴こえたのです。

僕はビックリして、もう一度、最後のサビの部分を聴き返しました。

しかし、「部屋とYシャツとメガネ～♪」とは歌っていませんでした。

僕は、よくある聴き間違いだと思い、しっかり耳そうじをして寝ました。

そして、次の日。

学校にて、友人で留学生の根沢東（こんたくとう）くんと懐メロの話題になりました。

僕は、「そういえば…」と思い出し、前日の「部屋とYシャツとメガネ～♪」事件のことを根沢東（こんたくとう）くんに話しました。

そうしたら、根沢東（こんたくとう）くんにも同じような経験があると言うではないですか！

しかも、根沢東（こんたくとう）くんの場合は、平松愛理さんが、テレビ朝日の『ミュージック・ステーション』（生放送）に出演した際、最後のサビの「部屋とYシャツと私～♪」の部分を「部屋とYシャツとコンタクト～♪」と歌ったと言うのです。

僕は思わず笑ってしまいました。

根沢東（こんたくとう）くんは怒りました。

僕は、『私（わたし）～♪』の3文字の部分を『コンタクト～♪』と5文字で歌うなんてありえない。

「平松愛理はそんなに早口じゃない！」と主張しました。

根沢東（こんたくとう）くんは「生放送は何があるかわからない！生放送には魔物が潜んでいる！」とさらにムキになりました。

結局、根沢東（こんたくとう）くんの「生放送だから！」という主張に押し切られ、『平松愛理さんが、「部屋とＹシャツと～♪」と歌っていた時にちょうどコンタクトがズレて、思わず「コンタクト～♪」と歌ってしまった』説が最有力ということで、その話は一応決着しました。

そして、納得のいかないまま下校していたら、後ろから根沢東（こんたくとう）くんが追いかけて来て、「帰りにカラオケに行こう」と言い出しました。

僕は、このカラオケには「仲直り」の意味が含まれていることを瞬時に察知し、根沢東（こんたくとう）と一緒にカラオケに行くことにしました。

もちろん、二人とも『部屋とＹシャツと私』を選曲し、僕は「部屋とＹシャツと私～♪」の部分を「部屋とＹシャツとメガネ～♪」と歌い、根沢東（こんたくとう）くんは「部屋とＹシャツとコンタクト～♪」と歌いました。

その時の根沢東（こんたくとう）くんの「コンタクト～♪」の部分は、留学生とは思えないくらい早口でした。

今日のメガネ川柳

「部屋とＹシャツと 私の歌詞は <http://www.utamap.com/showkasi.php?surl=37049>」

『部屋とＹシャツと私』で検索したら上のサイトに辿り着きました。
そして、この句は、もはや川柳ではありません。

メガネー1グランプリ

先日、日本一のメガネ歌人を競う『メガネー1グランプリ』に出場してきました。

僕は「冬メガネ 夏メガネより くもりがち」という句を発表しました。

この句は、冬には鍋物など、湯気の出る食べ物を多く食すので、メガネは夏より冬のほうがくもりがちである、という実体験をうたったものです。

審査員には、大会委員長のタモリさんや井上陽水さん、特別審査員のヨン様などがいましたが、結果は、優勝候補のメガネジュニア氏が、観客からスタンディング・メガネーションを受けて優勝しました。

※ スタンディング・メガネーション = 立ってメガネをカチャカチャさせる賞賛方法

僕ももっとメガネを磨いて、「来年こそは優勝してやる！」と堅く誓った一日でした。

今日のメガネ川柳

「メガネー1 優勝商品 コンタクト」

日本一のメガネ歌人を決定する『メガネー1グランプリ』ですが、なぜか優勝商品はコンタクトです。

ウワサによると、この大会のスポンサーがコンタクト会社で、メガネユーザーの注目度の高い『メガネー1グランプリ』の優勝者がコンタクトにかえれば、多くのメガネユーザーがコンタクトユーザーになるのではないかと、という陰謀があるようです。

しかも、それに対抗して、今度は大手メガネ会社が『コンタクトー1グランプリ』を開催するといふのです。

もちろん、『コンタクトー1グランプリ』の優勝商品はメガネです。

どうやら、メガネとコンタクトの冷戦は、まだまだ終結しそうにないです。

そういうわけで、この句には、反戦のメッセージを掲げてみました。

メガネ少女の幽霊

先日、メガネ少女の幽霊に遭遇しました。

僕が歩いていると、突然メガネ少女の幽霊が登場し、僕の行く手をさえぎりました。

子供の幽霊とはいえ、重度のビビリである僕は、足がすくみました。

そうこうしていると、僕の後ろから、メガネの中年男性が歩いてきて、僕を追い抜いて行きました。

次の瞬間、メガネの中年男性の前を、ものすごいスピードでショッカーが通り過ぎ、その走風で、メガネの中年男性のメガネが宙を舞いました。

※ ショッカー = 初期・仮面ライダーの敵

前を見ると、すでに、メガネ少女の幽霊はいませんでした。

僕は、再び歩きだしました。

しばらくして、また、さっきのメガネ少女の幽霊が登場し、僕の行く手をさえぎりました。

僕は、さっきよりはビビリませんでした。

そうこうしていると、僕の後ろから、デブのメガネ男性が歩いてきて、僕を追い抜いて行きました。

次の瞬間、デブのメガネ男性の前を、ものすごいスピードでショッカーの怪人が通り過ぎ、その走風で、デブのメガネ男性のメガネが宙を舞いました。

前を見ると、すでに、メガネ少女の幽霊はいませんでした。

僕は、ハッとしました。

「もしかしたら、メガネ少女の幽霊は、僕に危険を知らせてくれているのでは？」

僕は、再び歩きだしました。

しばらくして、また、さっきのメガネ少女の幽霊が登場し、僕の行く手をさえぎりました。

僕はもうビビりませんでした。

そうこうしていると、僕の後ろから、背が高くてハンサムな、ナイス・メガネガイが歩いてきました。

※ ナイス・メガネガイ = メガネをかけているカッコイイ男、の別名

メガネ少女の幽霊は、今度は、そのナイス・メガネガイの行く手をさえぎりました。

僕は、「もう進んでも大丈夫」という意味だと思い、前に進みました。

次の瞬間、僕の前をものすごいスピードで藤岡弘が通り過ぎ、その走風で、僕のメガネが宙を舞いました。

※ 藤岡弘 = 仮面ライダー1号

どうやら、メガネ少女の幽霊は、ただの面食いでした。

子供は時に残酷です。

今日のメガネ川柳

「僕とおぎやはぎ メガネ少女は さあ、どっち？」

メガネ少女の幽霊に遭遇した夜、僕はこんなことを考えました。

「もしも、僕とおぎやはぎが歩いていたら、メガネ少女の幽霊はどちらの行く手をさえぎるのだろうか？」

次の日、僕は某TV局の前で、おぎやはぎの出待ちをしました。

そうこうしていると、おぎやはぎの矢作さんが出てきました。

僕は、できるだけ自然に矢作さんの隣を歩きました。

そこに、前日のメガネ少女の幽霊が登場しました。

メガネ少女の幽霊は、少しの間、僕と矢作さんを見比べていました。

そして、メガネ少女の幽霊は、矢作さんの行く手をさえぎったのです。

僕は、負けました。

僕は、いさぎよく、前に進みました。

次の瞬間、僕の前をものすごいスピードでルパン三世が通り過ぎ、その走風で、僕のメガネが宙を舞いました。

僕は、再び某TV局の前で、出待ちをしました。

そうこうしていると、おぎやはぎの小木さんが出てきました。

僕は、できるだけ自然に小木さんの隣を歩きました。

そこに、メガネ少女の幽霊が登場しました。

メガネ少女の幽霊は、少しの間、僕と小木さんを見比べていました。

そして、メガネ少女の幽霊は、今度は僕の行く手をさえぎったのです。

僕は、勝ちました。

次の瞬間、小木さんの前をものすごいスピードで銭形警部が通り過ぎ、その走風で、小木さんのメガネが宙を舞いました。

※ 銭形警部 = ルパン三世の宿敵

メガネ少女の幽霊のルックス採点は、小木さん < 僕 < 矢作さんの順でした。

その晩、僕はおぎやはぎと一緒に、『おぎぼくやはぎ』というコンビ名でコントをしている夢を見ました。

メガネ少女の幽霊、いろいろあったけど、最後はありがとう！

今日の句を、メガネ少女の幽霊に捧げます。

メガネバイトの面接

先日、バイトの面接に行ってきました。

求人情報誌に、「メガネユーザー優遇」と書いてあったのを見て応募したのですが、詳しいバイトの内容は面接にて、ということでした。

面接地に行くと、そこは小さなラーメン屋でした。

店に入ると、見るからにガンコそうなラーメン屋のオヤジが、メガネをふきながら待ちかまえていました。

僕が「面接を受けに来ました」と言うと、ラーメン屋のオヤジは無言で厨房に入って行きました。

僕もおそろおそろ厨房に入ると、ラーメン屋のオヤジは「メガネをふけ」とだけ言い放ち、ラーメンを作り始めました。

僕は「このオヤジは何を言ってるんだ」と思いながらも、オヤジのメガネを注意深く見ていました。

そして、オヤジがラーメンをゆでようとした瞬間、オヤジのメガネが湯気でくもったのです。

僕は「このことだったのか！」と察知し、MYメガネふきで、オヤジのメガネをふきました。

オヤジは無言でした。

結局、一杯のラーメンを作る間に4、5回ほど、オヤジのメガネをふきました。

そして、ラーメンが出来上がると、オヤジは僕にラーメンを差し出しました。

僕は、おそろおそろ割り箸を割り、ラーメンを食べようと思いました。

その瞬間、僕のメガネは、ラーメンの湯気でくもってしまいました。

オヤジは無言で、僕のメガネをふいてくれました。

結局、一杯のラーメンを食べる間に6、7回ほど、オヤジがメガネをふいてくれました。

ラーメンを食べ終わり、僕が「ごちそうさまでした」と言うと、オヤジは「650円」と言いました。

僕は、650円払って店を出ました。

今日のメガネ川柳

「オヤジのメガネ ふこうとすると 自分のメガネ」

とても不思議なバイトの面接でしたが、「ラーメン代を請求される = 不合格」ということなんだと思います。

それから、「ラーメン屋のオヤジのメガネをふく」というこのバイト、一見簡単そうに思われるかもしれませんが、意外と難しかったです。

なぜなら、オヤジのメガネをふこうとしてオヤジに近付くと、今度は自分のメガネもくもってしまい、結果的に「オヤジのメガネをふく回数×2」メガネをふくことになるのです。

その難解さをこの句にふきこんでみました。

単独メガネライブ

先日、初の単独メガネライブをやってきました。

自分的には、かなり自信のあるメガネネタばかりを披露したんですが、最初から最後まで、一切笑いが起きませんでした。

僕は、そんなはずはないと思い、ライブ終了後に照明がついた会場を見渡すと、観客・スタッフを含め、僕だけがメガネユーザーでした。

やはりメガネユーザーにしか、メガネネタのおもしろさは伝わらないみたいです。

あらためて『メガネ少子高齢化』の波を感じた一日でした。

今日のメガネ川柳

「メガネネタ 考えてるの 根沢東（こんたくとう）」

初の単独メガネライブは、大スベリでした。

ライブ終了後、僕は、泣きました。

友人で留学生の根沢東（こんたくとう）くんも泣きました。

ちなみに、今回のライブのネタは、根沢東（こんたくとう）くんと一緒に考えたネタでした。

僕は、ライブの失敗を根沢東（こんたくとう）くんのせいにしました。

根沢東（こんたくとう）くんは、「それなら僕を殴ればいいじゃん」と言いました。

僕は、根沢東（こんたくとう）くんの顔面を殴りました。

根沢東（こんたくとう）くんはビックリしてました。

まさか、本気で殴るとは思ってなかったみたいです。

今度は、根沢東（こんたくとう）くんが、僕のボディを殴りました。

僕たちは、終電が来るまで殴り合い、終電で帰りました。

次の日、根沢東（こんたくとう）くんが、新しいメガネネタを書いてきました。

僕は、そのネタを読みながら笑い泣きしました。

でも、本当はうれし泣きでした。

今日の句は、そんな根沢東（こんたくとう）くんへの感謝の意を表しています。

ちなみに、根沢東（こんたくとう）くんは、最後まで僕の顔面を殴りませんでした。
今考えるとそれは、「僕のメガネを割らないように」という彼一流の優しさだと思います。

根沢東（こんたくとう）くん、いっぱい顔面殴ってゴメンよ。

メガネ風に吹かれて

先日、メガネ風に吹かれました。

この風が吹くと、なぜか、メガネだけが飛ばされるという不思議な風です。

僕も、メガネの授業で習ってはいたものの、実際にメガネ風に吹かれたのは初めてでした。

※ メガネの授業 = メガネの歴史や理論について学ぶ授業。選択科目。

それは、ちょうど僕が学校から帰る途中のことでした。

突風が吹いたかと思うと、僕のメガネは、すでに空中でした。

しかも、もう少しで手が届きそうな高さで飛んでいくのです。

僕は全力で追いかけてました。

超ド近眼の僕が一度見失ったら、二度とは見つからないと思ったからです。

そんな僕の気持ちをよそに、メガネはメガネ風に乗って、気持ちよさそうに飛んでいきます。

それから、どれくらい飛ばされたでしょうか。

メガネは、とあるマンションのベランダへ落ちて行きました。

僕は、どうしたものかと考えましたが、やっぱりメガネがないと困るので、そのマンションの一室のベルを押しました。

インターホンからは、若い女性の声が聞こえてきました。

僕は、ハッとしました。

「まさか、この声は...」

次の瞬間、ドアが10cmほど開き、そのすき間からメガネを持った、若い女性の左手だけが出てきました。

僕は、メガネを受け取りました。

そして、ドアが閉まる瞬間、僕は思わずこう言いました。

「もしかして...、レンズさんですか？」

閉まりかけていたドアは一瞬止まり、そのままゆっくり閉まりました。

※ レンズさん = 僕が追っかけをしていた、『メガネー娘。』の初代メンバー。詳しくは、『卒業メガネライブ』参照。

今日のメガネ川柳

「メガネ風 吹かれて飛んだ マイレンズ」

上の話には続きがあります。

ドアが閉まり、若い女性がレンズさんかどうか確かめることはできませんでしたが、小心者の僕は、それ以上踏み込めませんでした。

そして、メガネをかけて帰ろうとした瞬間、そのメガネが僕のメガネではないことに気がついたのです。

僕は、ふるえる手で、もう一度ベルを鳴らしました。

そして、インターホン越しに事情を説明しました。

次の瞬間、ドアが20cmほど開き、そのすき間から、僕のメガネを持った若い女性が、「ゴメンなちゃーい、間違えちゃったー！」と、笑いながら顔をのぞかせました。

若い女性は、やはりレンズさんでした。

少しやせてはいたけど、僕のレンズさんでした。

「ゴメンなさい」を「ゴメンなちゃい」という癖も変わっていませんでした。

でも...、レンズさんは、もうメガネをかけてはいませんでした。

僕はもう一度「レンズさんですか？」と聞きました。

レンズさんは、「エヘッ」と笑い、バイバイをしながら、ゆっくりドアを閉めました。

僕は、来た道と同じ道を帰りました。

帰る途中、突風が吹いたかと思うと、僕の隣を歩いていたオッサンのヅラは、すでに空中でした。

それは、ヅラ風のいたずらでした。

※ ヅラ風 = なぜか、ヅラだけが飛ばされるという不思議な風

今日のメガネ川柳・ボーナスストラック

「ヅラ風に 吹かれて飛んだ オッサンの魂」

人は変化します。

1年前にメガネをかけていた人が、1年後もメガネをかけているとは限りません。

1年前にヅラをつけていた人が、1年後も同じヅラをつけているとは限りません。

そんな当たり前のことを、メガネ風とヅラ風が教えてくれました。

4 回転メガネ

先日、メガネの授業を受けてきました。

※ メガネの授業 = メガネの歴史や理論について学ぶ授業。選択科目。

先生が授業の最後に「何か質問がある人？」と言うので、僕は以前から疑問に思っていたことを質問しました。

「フィギュアスケートの選手が、メガネをかけて回転ジャンプをしたら、メガネははずれるのか？」という質問です。

先生は、「スピード次第やな」と言いました。

僕は、「それは、どういう意味ですか？」と聞き返しました。

先生は、「ミキティー（安藤美姫選手）は、4回転ジャンプだから、その分回転のスピードも速い。

だから、遠心力でメガネははずれない。

しかし、他の選手は、4回転ジャンプじゃないから、その分スピードが遅くなる。

だから、メガネははずれる。」と言いました。

教室は、ザワめきました。

みんな、「『4回転』と『3回転半 or 3回転』で、そんなにスピードの差ができるのか？」と思ったからです。

その時、オリンピックマニアの鳥野くんが立ち上がり、斬新なアイデアを発表しました。

「先生、みんなで旅費を出し合って、代表者がトリノまで実験しに行きましょう！」

教室は、盛り上がりました。

その盛り上がりによって圧倒されてか、先生も、しぶしぶOKしました。

多数決の結果、最初に質問をした僕と、斬新なアイデアを発表した鳥野くんが、トリノまで実験に行くことになりました。

現地に着くと、早速、僕と鳥野くんは、ミキティー（安藤美姫選手）のいる練習場へ向かいました。

僕は、不安でした。

「ミキティーが、こんな大事な時期に、こんなくだらない実験に付き合ってくれるのだろうか？
そもそも、ミキティーに一般人が近付けるのだろうか？」

そう思ったからです。

しかし、その不安は、オリンピックマニアの鳥野くんが、すぐに消し去ってくれました。
鳥野くんは、またもや斬新なアイデアを発表してくれたのです。

そして、僕と鳥野くんはジャンケンをしました。

ジャンケンは、僕が勝ちました。

その10秒後、素っ裸になった鳥野くんが、スケートリンク上を走っていました。
選手や関係者は、みんな鳥野くんを釘付けです。

僕は、そのスキについてミキティーに近付き、「これは『イッテQ』のロケなんですけど…」とテレビ番組のスタッフを装い、実験の説明をしました。

ミキティーは、突然のことでビックリしていましたが、「1回だけだよ」と、最高のミキティー・スマイルを見せてくれました。

そして、僕が用意したメガネを素早く装着し、スケートリンクを滑り出しました。

長い助走の後、ミキティーはジャンプをしました。

次の瞬間、メガネがスケートリンクの上を滑っていました。

そうです。

残念ながら、ミキティーの4回転ジャンプは失敗に終わりました。

ミキティーは「ゴメン」のポーズをしながらも、最高のミキティー・スマイルを見せてくれました。

そして、そのミキティー越しに、鳥野くんがたくさんの警備員に取り囲まれているのが見えました。

今日のメガネ川柳

「ミキティー・メガネ 本番では はずれない」

結果的に、実験の結果は、半分しか分かりませんでした。

先生の言った通り、4回転ジャンプに達しない場合は、メガネがはずれました。

しかし、4回転ジャンプの場合に、メガネがはずれないかどうかは未解決のままです。

でも僕は、「4回転ジャンプの時は、メガネははずれない」と信じたくまりました。

なぜなら、「4回転ジャンプの時は、メガネははずれない」＝「もしもミキティーが、本番でもメガネをつけてジャンプをしたら、メガネははずれない」＝「本番で、ミキティーは4回転ジャンプに成功する」

そう信じたいからです。

今日の句を、ミキティーとオリンピックマニアの鳥野さんに捧げます。

ミキティーのことをもっと詳しく知りたい方は → <http://www.miki-ando.jp/>

テントメガネ

ある雨の日の帰り道。

突然のどしゃぶりに襲われ、雨やどりをすることにしました。

するとそこには、僕が片思いをしていた、同じクラスのめがね原さんが、先に雨やどりをして立っていました。

めがね原さんのメガネを伝わるしずくを見ているうちに、思わず勃起してしまった僕は、勃起していることに気付かれる前に、その場を立ち去ろうと考えました。

立ち去り際、「オレのメガネふきを使えよ」と自分のメガネふきを手渡し、どしゃぶりの中を走っていく僕。

僕は「キマった〜！」と心の中でメガネポーズを取っていました。

※ メガネポーズ = メガネをうまく利用したガッツポーズ

次の日、めがね原さんが、メガネふきを洗って返してくれました。

そして、「昨日、勃起してたでしょ？」の一言。

僕はメガネをふいてその場をごまかそうとしましたが、めがね原さんには通用しませんでした。

それ以来、クラスの女子からは『テントメガネ』と呼ばれています。

※ テント = 勃起をした状態の別名

今日のメガネ川柳

「めがね原 つば原先生と できている」

つい最近のことですが、「めがね原さんとつば原先生はできている」というウワサが学校中に流れました。

※ つば原先生 = 僕のクラスの担任で、メガネ生徒の天敵。詳しくは、『天敵・つば原先生』参照。

僕は、ショックでした。

なぜなら、つば原先生は、僕が一番嫌いな先生だったからです。

しかも、朝礼で点呼を取った時、他の生徒の名前は名字で呼んだのに対し、めがね原さんの時だけは、「がねちゃん」と呼んだのです。

僕は、イラッときました。

めがね原さんのことを「がねちゃん」と呼んだこともそうですが、「めがね原」を「がねちゃん」と呼ぶ、そのセンスに対してです。

それだけでは、終わりませんでした。

なんと、つば原は、僕のほうを見て『テントメガネ』と呼んだのです。

僕は、ブチッときました。

しかし、そこでキレてしまったら、最近のキレる子供の仲間入りをしてしまうし、自分のことを『テントメガネ』と認めることになってしまうので、修学旅行の楽しかった思い出とかを思い出したりして、なんとか平常心を保ちました。

その次の日、教育委員会主催で、学校の先生に対してのアンケート調査が行われたので、僕はアンケートの表と裏をふんだんに使って、ビッシリつば原の悪口を書き殴りました。

その日は、たまたま、伊達くんが休んでいたのので、伊達くんの分のアンケートにも、つば原の悪口を書き殴りました。

※ 伊達くん = アダ名・読眼留マサムネ。詳しくは、『伊達くん』参照。

その効果もあってか、つば原は、二度と僕のことを『テントメガネ』とは呼ばなくなりました。でも、あいかわらず、めがね原さんのことは「がねちゃん」と呼んでいます。

つば原は、本当に、天敵の中の天敵です。

袋づメガネセール

先日、某メガネ店の『袋づメガネセール』でメガネを買いました。

『袋づメガネセール』とは、ビニール袋につめれるだけメガネをつめて、1000円ポッキリという、夢のようなメガネセールです。

スーパーとかで、たまに見かける、あのシステムです。

わりと小さい袋だったので、合計5本しかメガネをつめられませんでした。1000円だからいいや、と思い買うことにしました。

そして、ややハイテンションで家に帰っている途中、体操服を着た小学生に出会いました。その小学生は、運動会の借り物競争中で、僕に「メガネを貸してください」と言ってきました。僕は、5本も持ってるから1本くらいいいや、と思い貸すことにしました。

小学生は、「オレ、1番！」と叫びながら、うれしそうに去って行きました。

しばらくすると、今度は、おぎやはぎの小木さんに出会いました。

そこに、さっきとは違う小学生が現れ、小木さんのメガネを借りて、「オレ、2番！」と叫びながら、急いで去って行きました。

メガネを失った小木さんは、メガネをかけてる時より大分ブサイクでした。

僕は、出すぎたマネとは思いつつも、小木さんに「メガネありますか？」と言いました。

小木さんは、僕がメガネを4本も持ってることを確認した後、「悪いね」と言って、僕のメガネをかけてくれました。

また、いつもの小木さんの顔に戻りました。

しばらくすると、今度は、おぎやはぎの矢作さんに出会いました。

そこに、さっきとは違う小学生が現れ、矢作さんのメガネを借りて、「オレ、3番！」と叫びながら、かなり急いで去って行きました。

メガネを失った矢作さんは、メガネをかけてる時より大分老けて見えました。

僕は、出すぎたマネとは思いつつも、矢作さんに「メガネありますか？」と言いました。

矢作さんは、僕がメガネを3本も持ってることを確認した後、「悪いね」と言って、僕のメガネをかけてくれました。

また、いつもの矢作さんの顔に戻りました。

しばらくすると、今度は、中学生くらいの二人組のひったくりに遭い、残りのメガネを奪われて

しまいました。

僕は、中学生にナメられてたまるか、と思い二人の後を追いかけてきました。

かなり追いかけた末、最終的に行き止まりにぶち当たりました。

僕は、不思議に思いました。

「一度も二人を見失わずに追いかけたのに、どうして二人はいなくなってしまったんだろう？」

僕は、ハッとしました。

そういえば、さっき二人組の中学生にすれ違ったのです。

しかし、二人は、僕から奪ったメガネをかけて変装していたので、気付かずにスルーしてしまったのでした。

結局、僕の手元には、1本のメガネも残りませんでした。

そして、かなりローテンションで家に帰っている途中、僕が最初にメガネを貸した小学生に出会いました。

小学生は、僕を見てニッコリ笑い、僕が貸したメガネを返してくれました。

そして、持っていた1等賞の賞状を半分にやぶって、その半分を僕にくれたのです。

僕は、1本のメガネと、半分になった1等賞の賞状を持って家に帰りました。

今日のメガネ川柳

「おぎやはぎ 僕のメガネで さんま御殿」

たまたま、おぎやはぎの二人にメガネをあげることになったわけですが、数日後、テレビで『踊る！さんま御殿』を見ていたら、おぎやはぎの二人が、僕があげたメガネをかけて出演していて、「メガネにまつわる話」というテーマで、僕と小学生たちのエピソードを話していました。

全体的には、ややウケでしたが、さんまさんだけは大笑してくれました。

しかも、番組中に、ニュース速報のテロップが流れ、「メガネをひったくったという二人組の中

学生、自首する！」と出ていました。

それが僕の、メガネにまつわる話です。

『メガネーフォン』発売なるか？

先日、『メガネーフォン』という未発表の新商品のモニターをしました。

ネーミングでわかるかもしれませんが、『メガネーフォン』とは、「メガネ」と「携帯電話」が一体となった商品です。

実は、僕の父は、某電話会社に勤めていて、社運をかけたこの商品のモニターになってほしいと頼まれたのでした。

次の日、早速メガネーフォンをかけて登校しました。

もちろん授業中は電話禁止なので、マナーモードに設定していました。

そして、予想もしていなかったことが起きてしまったのです。

なんと、突然メガネーフォンが、猛スピードで振動（バイブ）しだしたのです。

後でわかったことですが、メガネーフォンを父が使っているとばかり思っていた、父の会社からの電話でした。

しかも、わりと緊急の連絡だったらしく、電話のコールはなかなか終わりませんでした。

周りの生徒も、「誰かの携帯電話が振動（バイブ）しているなあ」と気がつき始めました。

僕はアセりました。

なぜなら、隣の席の怒子毛（どこもう）さんのお父さんは、父の会社のライバル会社に勤めているからです。

もしも、怒子毛（どこもう）さんのお父さんに、未発表の新商品である『メガネーフォン』の存在がバレてしまったら、父の会社の社運がどうなるかわからないからです。

僕は、瞬時に考えました。

そして、ひらめきました。

次の瞬間、メガネーフォンの振動（バイブ）に合わせて、猛スピードで顔を上下する僕の姿がそこにはありました。

正直、僕は、うまくごまかせたと思っていました。

しかし、タイミングが悪すぎました。

実は、前日に、クラス1の美人である小野さんの制服の第2ボタンが盗まれるという事件が起っていて、その犯人探しをしている最中だったのです。

先生が、竹内力ばりのドスのきいた声で「誰がやったんだ〜？」と言いました。

教室は静まりかえりました。

そんな中、僕は、猛スピードで顔を上下しています。

その姿を見て、「何度もうなずいている」と勘違いした先生が、「お前がやったのか？」と、僕をにらみました。

無常にも、電話のコールはいつこうに終わらず、僕は、さっきと同じ猛スピードで顔を上下するしかありませんでした。

今日のメガネ川柳

「メガネフォン 真実あばく 名探偵」

結局、僕が、小野さんの第2ボタンを盗んだ犯人ということになり、学校中の先生という先生に怒られた後、校長先生の趣味である「川柳」で反省文を書かされました。

ちなみに、その反省文はこうです。

「返します 小野さんの 第2ボタン」

それ以来、クラスの女子からは白い目で見られ、小野さんから一番遠い席に席替えさせられることになりました。

また、他のクラスの女子も、僕の姿を見るたびに、制服の第2ボタンを手で隠すようになりました。

でも、同情はしないでください。

なぜなら、小野さんの第2ボタンを盗んだのは、本当に僕だったからです。

ちなみに、『メガネフォン』は正式に商品化され、『コナン』という商品名で発売されることが決定しました。

まさに、『メガネフォン』は真実をあばく名探偵です。

メガネ第一高校 校歌

一、

ブームの前から かけている

鼻でささえ 二枚のレンズ

ズレては上げてを くり返し

今日も世界を のぞくのさ

ああ メガネ メガネ第一高校

二、

ブームが去っても はずせない

一生続く？ 腐れ縁

くもってふいてを くり返し

今日も女子風呂 のぞくのさ

ああ メガネ メガネ第一高校

眼鏡物語 ～ メガネの名前の由来 ～

A : え～、今日は、この「視力を倍増させる道具」の名前をみんなで決めようと思う。昨日の宿題にしていたが、みんな、考えてきたかな？

B : はーい！僕が考えたのは、「目」を「助ける」と書いて「目助け（めだすけ）」です。

C : それは、ちょっと安易すぎないかしら。私は、丸い形をしてるから「丸見え（まるみえ）」というのがいいと思うわ。

D : それも悪くはないけど、西洋では「glasses」と呼ぶらしいから、それを漢字になおして「愚裸静（ぐらしず）」と呼ぶのがいいと思うな。

E : その漢字は難しすぎて、老眼の人には読みにくいんじゃないかしら。私は「目」の「前」につけるから、「目前（もくぜん）」というのがいいと思うけど。

F : 僕もちょっと似てるけど、「縁の下の力持ち」を文字って「目の前の力持ち（めのまえのちからもち）」がいいと思います。

G : それは、名前というより、キャッチコピーじゃない？私は、レンズが二枚あるから「二枚目（にまいめ）」っていうのがいいと思うんだけど。

H : うん。それは悪くないね。ちなみに僕が考えたのは、「肉眼（にくがん）」の反対で「野菜眼（やさいがん）」です。

I : それだけはないと思うわ。私は、「目」を二つ書いて「目目（もくもく）」がいいと思いまーす！

J : 僕もちょっと似てるけど、「眼」を二つ書いて「眼眼（がんがん）」がいいと思いまーす！

K : 私は、今日が木曜だから「目曜（もくよう）」でいいかな。

L : じゃあ、僕は、二丁目に住んでるから「二丁目（にちょうめ）」でいいや。

M : ちょっとマジメに考えなさいよ！私は、女の子っぽく、「目巢（めす）」がいいと思うんだけど。

- N : 僕は、メロンが大好きだから「目論（めろん）」がいいな。
- O : 私は、目の道具だから「目具（めぐ）」がいいと思いまーす！
- P : それは、君が「めぐ」っていう名前だからだろ？そんなの、「駄目（だめ）」だよ！
- Q : 私は、この道具が、目が悪い人にとっての「救世主」だと思うから、「目視壺（めしあ）」がいいと思う。
- R : それはうまいね！僕も負けずに「目印良品（めじるしりょうひん）」で勝負だ！
- S : 私は...、彼に「目茶苦茶（めちゃくちゃ）」にされたい！
- T : それも傑作だね！僕は、ゲームのドラクエが好きだから「目裸（めら）」で決まりさ。
- U : 私は、目が悪い人にとっての「目神（めがみ）」であってほしい。
- V : 僕もそれに賛成だね！もっと言えば「自由の目神（じゆうのめがみ）」だね。
- W : それだとアメリカっぽくない？私は日本っぽく「目の丸（めのまる）」がいいわ。
- X : オイラは、昨日、ばあちゃんが癌で死んだばかりだから、「眼（がん）」でいいよ。
- Y : そ、そうだったの...。でも、「眼張って（がんばって）」ね！
- Z : じゃあ、僕で最後だね。僕は、「眼」の「鏡」と書いて「眼鏡（めがね）」がいいと思う。
- A : よし、それでいこう！

今日のメガネ川柳

「眼鏡のね 名前の由来 こんな感じ」

眼鏡（めがね）という名前は、こうしてつけられましたとさ。

おしまい。

おぎやはぎ・小木の「メガネ」に密着取材！

今日、おぎやはぎ・小木のメガネは「笑っていいとも！」に出演した。

生番組とあって、緊張する小木のメガネ。
対照的に、リラックスしているタモリのサングラス。
さすがに、ベテランのメガネだけはある。

小木のメガネは、心の中で「眼鏡」という字を何度も書き、緊張をほぐそうと試みた。
しかし、緊張しすぎて「眼鐘」と書いてしまった。
そのせいで、小木のメガネは、ますます緊張してしまう。
フレームはカチカチだ。

一方、相方である矢作のメガネは、いつも通りのマイペース。
小木のメガネは、

「今日は、矢作のメガネにまかせよう！」

そう思った。
ちょうどその時、矢作のメガネは、

「小木のメガネ、今日は、オレにまかせろ！」

そう思っていた。
コンビ・メガネ愛は、デビュー当事と変わらず、今も健在である。

小木のメガネ、矢作のメガネ、タモリのサングラス。
1つの画面に、3つのメガネ。
メガネファンには、たまらない3ショットだ。

そして、あたたかい拍手に包まれて、生収録は終わった....。

今日のメガネ川柳

「小木メガネ 矢作メガネと 同級生」

今日の「笑っていいとも！」でも言っていたが、「おぎやはぎ」は高校時代の同級生である。そして、「小木のメガネ」と「矢作のメガネ」も同級生である。もっと正確に言うと、2つのメガネは、それぞれ3代目なので、「小木メガネ3世」と「矢作メガネ3世」なのである。

密着取材の最終日である今日、小木メガネ3世は、こんな本音をもらしていた。

「小木メガネ4世の出番は、当分来ないと思いますよ」

私は、その言葉に、小木メガネ3世の「自信」と「プライド」を見たような気がした。

密着取材が終わり、タクシーに乗り込む、小木メガネ3世。

その表情は、「芸能人のメガネ」から「普通の34歳のオッサンのメガネ」にかわっていた…。

僕のメガネは知っている。

僕のメガネは知っている。

僕が、すれ違う女子高生をチラ見していることを。

僕のメガネは知っている。

僕が、レンタルビデオのアダルトコーナーで品定めをした後、レジが女の人であることに気づき、少し悩んだ末、結局借りるのをやめたことを。

僕のメガネは知っている。

僕が、モテナイことを。

僕のメガネは知っている。

僕のが、小さいことを。

僕のメガネは知っている。

僕が、〇〇したことを。

僕のメガネは知っている。

僕の過去を。

でも、僕のメガネは知らない。

僕の未来を。

あとがき

この本は、2006年2月から2006年3月にかけてブログで公開した「メガネ日記」をまとめたものです。

今、冷静に読み返すと分かりにくい部分もありますが、ほぼ修正はしていません。

こうして電子書籍にできたことで、当時の日々が報われたような気がします。

パブー、バンザイ！